

# 仁保

Uターンを決めたきつかけは  
アイランドで見た田舎風景

山口市仁保でインテリアやプロダクトのデザインの仕事を手掛ける藤本敦央さんは、故郷への移住、いわゆるUターン者だ。高校までを市中心部で過ごし、大学進学を機に下関市へ。大学でアート・デザインを学んだ後、上京し椅子の製作会社で3年間開発に携わった。その後、「違う世界も見てみたい」とヨーロッパを放浪し、畑の多いホテルマンも経験。結局「ものづくりがしたい」との想いに至り、東京のインテリアデザインの会社に着いた。何でも揃い、やりがいのある仕事も潤沢な都会で、不自由ない暮らしを送っていた藤本さんだが、転機は新婚旅行で訪れたアイランドだった。現地の田舎の風景を見てからというもの、心境が少しずつ変化していったという。「アイランドの田舎の風景を目にしてからというもの、気づけば休日のたびに妻と息子と田舎へ出かけるようになっていました。そのうち、もうこれは田舎に住んだ方がいいなって思うようになったので、どうせなら全く知らない土地よりはゆかりのあるところ

東京からUターンしたインテリアデザイナーの藤本敦央さん。移住の地を選んだのは、生まれ育った山口市吉敷ではなく、のどかな田舎の風景が広がる仁保。この地を選んだ理由や現在の暮らし、地域の魅力などについて聞いた。

安心だろうと、生まれ育った山口市へのUターンを決めました」。

空き家バンクを活用して  
理想の住まいを見つけた

藤本さんはひとまず実家に戻る形でUターンを果たし、空き家バンクを活用しながら自分の家を探すことにした。そして約1年後、ようやく理想とする家、現在の住まいに出会った。藤本さんが最優先した条件は、「景色がいいこと」。山口市内のあちこちを検討し、最も惹かれたのが仁保だった。「とにかく家の前に広がる景色が良かった。妻と二人で家に背中を向けたまま、ずっと眺めていましたよ。結局決め手は景色で、家の方はほとんど確認していませんでした(笑)。でもその場で『ここにします』って。畳をフローリングにしたり、壁を塗り替えたり、キッチンを新しくしたりと、最小限の改修を施して移住。田舎暮らしがスタートした。

自然の豊かさと人が魅力  
仁保は「ちょうどいい田舎」

「山も川もあって、日常的に土に触れられる。ここには日本人本来の暮らしがある気がします(藤本さん

## 自然と人の営み そのバランスがいい

最小限の改修を施した古民家の一室が、藤本さんの仕事場兼奥様のアトリエ。窓の外には、2人が理想とした長閑な田舎の景色が広がる。「時々作業の手を止めて、コーヒーを片手に景色を眺めて楽しんでいます」と藤本さん。

インテリアデザイナー  
藤本敦央さん

Real  
Voice

3



仁保は自然の恵みが溢れ  
穏やかな暮らしができる場所。



1. 藤本さんが惚れ込んだ家の前の風景。窓枠がまるで額縁のようにも見える。広い庭は子どもたちにとって格好の遊び場。「都会暮らしとは異なり、コロナ禍でもストレスフリーでした」と奥様。2. コーヒータイムは毎朝の日課。3. 飾り棚は藤本さんが手がけたプロダクト。センス良く小物が並ぶ。



空間全体のコーディネートから家具1点まで、「建物の内側にあるもの」のデザインが藤本さんのフィールド。木材加工販売会社とのコラボレーションで、デザイン・ブランディングを手がける家具ブランドも立ち上げた。

山口市  
空き家・空き地バンク

空き家・空き地を「売りたい」「貸したい」所有者と、「買いたい」「借りたい」利用希望者をマッチングする山口市の「空き家・空き地バンク」。物件の紹介は、山口市の移住情報サイト「すむ住む山口」で行っている。



すむ住む山口 ▶ <https://www.sumusumuyamaguchi.jp>

ん)。子どもたちは広い庭で駆け回ったり、山に入って山菜を摘んだり、たけのこを掘ったりと、たくましく育っているという。「小2の長男はすっかり仁保っ子。学校まではスクールバスが出てるので安心です。下の娘は市中心部の保育園に通っています。送迎にかかる時間は車で20分くらい。特に負担を感じることはありません」。暮らしに不便はないのかと尋ねたところ、「インフラは整っていますし、市中心部との距離感もすごくいい。多少、(携帯電話の)電波が弱いところもありますが、支障をきたすほどではありません。意外にも

移住者が結構多く、地元の方々も最初からウエルカムでした。近所の方がふらっと遊びに来たりしますし、妻も味噌や梅干しの作り方を習ったりと楽しんでるようです。仁保は、自然と人の営みとのバランスが取れた「ちょうどいい田舎」だと思います」と藤本さん。自宅の一部を使った仕事場は、革製品の作家である奥様のアトリエでもある。窓の外には、仁保の自然豊かな景色が広がる。現在、藤本さんはこの大好きな景色が広がる仁保をもっと元気にするための方法を模索中。「ギャラリーの開設や空き家の活用など、仁保を活性化するためやってみたくはたくさんあります。少しずつ実現していきたいです」。そう語るまっすぐな瞳が印象的だった。

取材の様子は動画でもご覧いただけます。

